

令和6年度 第1回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会議事録

【日時】 令和6年7月30日（火） 10:00～15:40

【場所】 秋田県林業研究研修センター及び現地

【出席者】

○秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会委員

加賀谷 均 （加賀谷均税理士事務所 税理士）
笠井 みち子 （秋田県消費者協会 監事）
熊谷 嘉隆 （公立大学法人国際教養大学 理事・副学長）
佐々木 沙弥香 （公募委員）
佐藤 充 （NPO法人 環境あきた県民フォーラム 理事長）
松本 昭広 （一般社団法人 秋田県造園協会 会長）
三浦 美貴子 （秋田市立金足西小学校 校長）

○県側

村上 幸一郎 （農林水産部森林技監）
柴田 淳 （総務部税務課 調整・企画チームリーダー）

【議題】

- （1） 令和5年度秋田県水と緑の森づくり税事業実績について
- （2） 秋田県水と緑の森づくり基金の状況について
- （3） 令和6年度基金運営委員会のスケジュールについて

【視察】

- （1） 針広混交林化整備事業
「仙北市田沢生保内駒ヶ岳地内」
- （2） 緩衝帯等整備事業
「大仙市大神成字上村地内」
- （3） 2018水と緑の森林祭植樹会場
「仙北群美郷町千屋字狐森地内」

1 開会（今川チームリーダー）

開会を宣言

2 あいさつ（村上森林技監）

皆様、おはようございます。秋田県農林水産部森林技監の村上と申します。

本日は、委員の皆様には、お忙しいところ、「秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会」に御出席いただき、厚くお礼を申し上げます。皆様には、日頃より、県政の推進にあたり、格別の御支援をいただいております、この場を借りて、感謝を申し上げます。

また、今年度から新たに就任された4名の委員の皆様には、今後とも委員会の運営に御協力をお願いします。

はじめに、先週からの大雨でございますが、72時間雨量で見ると観測史上最大の降水量となるなど、広い範囲での大雨となりました。本日も被害確認のため、ヘリが飛ぶ予定となっておりますが、現時点で農地の被害が確認されており、今後農林水産部全体での対策を行っていく予定です。

さて、「秋田県水と緑の森づくり税」事業につきましては、4月から4ヶ月余りが経過し、ハード事業・ソフト事業とも本格的に動き始めていると考えています。中でも、昨年中止となった「森林祭」を7月6日に由利本荘市で無事に開催することができました。この「森林祭」につきましては、コロナ禍の中止や縮小開催、そして昨年の大雨による中止を経て5年ぶりの通常開催となり、植樹活動やバスツアー・各種イベントなどを実施し、多くの方々に来場していただきました。

また、3月の第3回基金運営委員会で、令和9年度に開催する「第50回全国育樹祭」の招致について報告したところですが、来月には、国土緑化推進機構の理事会で正式に決定される予定となっております。今後は、森づくり税事業でもボランティアや青少年等による植樹や育樹活動を積極的に支援し、県民参加の森づくり運動を展開しながら、県全体で盛り上げていきたいと思っております。

本日の委員会でございますが、令和5年度事業実績や基金の状況の説明に加え、過去に税事業で実施した針広混交林化整備事業や森林祭の植樹会場、さらに今年度実施した緩衝帯等整備事業の現地視察も行いますので、森づくり税事業の取り組みについてご確認いただきたいと思います。

なお、皆様から多くの御意見や御提案をいただくことで、当県に必要な施策や事業に反映していきたいと考えておりますので、忌憚のない御意見をお願いしまして、あいさつといたします。

本日は、どうぞよろしくお願い致します。

3 委員会の成立（今川チームリーダー）

委員10名のうち7名の出席により委員会が成立していることを報告。

4 委員紹介（今川チームリーダー）

委員改選後最初の基金運営委員会であるため、新任の委員を紹介。

5 日程等の説明（今川チームリーダー）

日程表のとおり

6 熊谷会長あいさつ

皆様、本日は御参集いただきまして、ありがとうございます。

今回は、机上での議論だけでなく、現場での視察を入れることで、より活発な議論をしたいと思っております。

本日は、議題が3件、その後に視察が3件予定されております。事務局からの説明のとおり、バス移動中の特殊な形での会議となりますが、スムーズな進行に御協力をお願いします。

また、議事の内容は、議事録として県のHPに掲載されます。その際には、委員名は公開したいと考えておりますので、御承知願います。

7 議題 (1)

熊谷会長

議題1 令和5年度秋田県水と緑の森づくり税事業実績について、事務局から説明をお願いします。

事務局（山口技師・齊藤主査・春日主幹）

資料1 令和5年度秋田県水と緑の森づくり税事業実績について、担当毎に説明。

熊谷会長

事務局から説明がありましたが、ただいまの説明について御意見、御質問はあるでしょうか。御意見が無いようなので、次の議題に移ります。

8 議題 (2)

熊谷会長

議題2 秋田県水と緑の森づくり基金の状況について、事務局から説明をお願いします。

事務局（春日主幹）

資料2 秋田県水と緑の森づくり基金の状況について説明。

熊谷会長

事務局から説明がありましたが、ただいまの説明について御意見、御質問はあるでしょうか。御意見が無いようなので、次の議題に移ります。

9 議題 (3)

熊谷会長

議題3 令和6年度基金運営委員会のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。

事務局（春日主幹）

資料3 令和6年度基金運営委員会のスケジュールについて説明。

熊谷会長

事務局から説明がありましたが、ただいまの説明について御意見、御質問はあるでしょうか。先の2つの議題についてでもかまいません。

御意見が無いようなので、本日の3つの議題についてはすべて承認することとします。

その他、皆様から何かございますか。

無いようなので、これで議長の任を解かせていただきます。皆様の、御協力に感謝申し上げます。

ここからの進行について、事務局にお返しします。

10 現地視察資料の説明

事務局（今川チームリーダー）

熊谷会長ありがとうございました。つづきまして、現地視察についての説明をお願いします。

事務局（山口技師・春日主幹）

資料4を御覧ください。

最初の視察は針広混交林化整備事業の実施箇所です。所在地は、仙北市田沢生保内駒ヶ岳地内で、平成21年に群状誘導伐という方法で伐採した現場です。

群状とは、20m×20m程度の小さい規模での伐採箇所をモザイク状に配置するもので、県内でも珍しい伐採方法で実施しております。

伐採箇所は、光環境が良好となることから、広葉樹の生長促進に繋がると考えられています。

今日は、伐採から15年経過した状況を見ていただきたいと思います。

また、針広混交林化整備事業の隣接地に、ブナとナラの2次林があり、林業研究研修センターの試験地にもなっていることから、センターの和田部長に説明していただきますので、そちらも併せて見ていただきたいと思います。

資料5を御覧ください。

2つ目の視察は緩衝帯等整備事業の実施箇所です。所在地は、大仙市大神成字上村地内で、緩衝帯整備といえばツキノワグマ対策のイメージですが、この地域はイノシシの出没も多く見られており、クマとイノシシ両方の出没抑制を図る目的で実施しております。本日は、今月完成したばかりの現場を見ていただきたいと思います。

資料6を御覧ください。

3つ目の視察は2018秋田県水と緑の森林祭の植樹会場です。所在地は、仙北郡美郷町千屋字狐森地内で、この植樹会場は、旧花岡スキー場跡地に薬樹の森として植栽したもので、現在も森林ボランティア団体による植樹活動が継続されています。

以上が、簡単な現地の説明になりますが、詳しくは現地で説明したいと思います。

11 視察箇所①針広混交林化整備事業「仙北市田沢生保内駒ヶ岳地内」

事務局（山口技師）

資料4により概要を説明。

村上森林技監

この場所には、元々広葉樹はなかったということですか。

事務局（春日主幹）

もともとは、残っているスギと同じ人工林の一斉林でした。

佐藤議員

針広混交林の評価としてはどう考えているか。

事務局（今川チームリーダー）

場所にもよりますが、笹などが生えてしまうとうまく広葉樹が成長できなくなります。この現場では、高木の広葉樹も生育してきており、広葉樹の成長が見込めると考えられますが、評価については、今後再度モニタリングを実施し、どのような施業が必要なのか検討していく必要があると考えます。

三浦委員

そもそもなぜ広葉樹を植えるのでしょうか。また、広葉樹だと何が良いのでしょうか。

事務局（今川チームリーダー）

広葉樹を植える訳ではなく、ここは標高も高く、高標高では一般的にスギの生育が悪くなります。生育が悪くなると、森林の持つ公益的機能が低下し災害などの発生が懸念されます。そこでこのような場所では、公益的機能が低い針広混交林へ誘導する必要があると考えています。

和田部長

昭和 43 年の全国植樹祭がきっかけで拡大造林が進みましたので、ここも 50～60 年代の森林となっております。この標高が約 600 メートルで、スギの造林限界の境目となっています。同時に、広葉樹がよく育つのもこのあたりで、混交林化する場所的にベストな標高です。

針広混交林化整備事業の隣接地にある「林業研究研修センター試験地」（ナラ・ブナ 2 次林）

和田部長

ここでは、クマとブナとの関係性も調査しております。シードトラップという種の量を観測する仕掛けを設置してある場所です。ブナという樹種は、非常に変わった特性があり、種を毎年つけません。また、豊作と凶作が交互に来るという極端な特徴があります。去年が記録的な凶作でした。同時にミズナラ凶作というダブルの凶作の年でした。

これにより、去年のクマの大量出沒はその反動と考えます。豊作の時に、いっぱい木の実を食べて、栄養がよくなりクマが繁殖して密度が増え、去年の大凶作で食べ物がないということで里に降りたという、そんな関係が成り立っているかと思います。

ちなみにですが、今年ブナは豊作になるという予測を立てています。ブナは豊作になった翌年は必ず凶作になります。ですから、来年は凶作です。今年も既にクマの出沒警報を出していますが、私たちの見解ですと来年はさらに危ないですので、その辺の対策が必要になってくると思われます。

熊谷会長

ブナの実の豊作、凶作間隔が論文では2年、最長で8年とありますが、最近の間隔変動の要因は何が考えられますか。

和田部長

温暖化ではないかと言われておりますけれども、1990年代から2005年までは、きれいに5年間隔でした。

しかし、2005から2013年まで8年間はまったく実がなかったです。逆にここ数年は、非常に間隔が狭くなっており、2013年の豊作次は、2015年と2年間隔で豊作になりました、そのあと3年後2018年、その後4年後2022年、おそらく今年は豊作になるので、また2年間隔になりそうです。ここ10年間での豊作の間隔は短くなっています。

熊谷会長

ブナの豊作、凶作についてですが、それによって、ブナ自体の生育や寿命には影響がないのですか。

和田部長

一般的に言われるのは、やはり豊作になるとエネルギーを相当使うので、成長が遅くなったり、葉っぱが小さくなったり、成長に影響があると言われていました。しかし、あまり影響がないという報告もあり、その辺は微妙で寿命との関係はなかなか検証されていないのが現実かと思います。

村上森林技監

広葉樹の人工林で成功している事例は非常に少ないと聞いていますが。

和田部長

針広混交林化整備事業をやっている、広葉樹が色々と成長してきていますが、一つ広葉樹の特性として、針葉樹と比べて大きな違いがあります。それは、萌芽再生する力があるということです。伐根からまた芽を出して、また再生します。

スギとかマツはそういった力が非常に弱いので、その点では広葉樹は優れており、この場所は、もともとあった広葉樹が切られ、細々と生きていたものが、この事業をやることによって、また再生してきたと考えられるので、そういった点が非常に大きいと思います。

熊谷会長

クマが食べるのはほとんどブナの実だけなのでしょうか。

和田部長

ミズキとかどんぐりとか色々ありますが、ブナの実というのは非常に栄養価が高くて、人間も生で食べると非常においしいです。そのぐらいおいしくて栄養価があるということで、日本全国でクマの出没の傾向とブナの実との相関関係を見ていくと、秋田県はずば抜けてブナとの関係が

明確に強く出ます。

12 視察箇所②緩衝帯等整備事業「大仙市大神成字上村地内」

事務局（山口技師）

資料5により概要を説明。

熊谷会長

緩衝帯は自然保護課からの依頼で実施されているのですか。また事業実施にあたり協議はしているのですか。

事務局（今川チームリーダー）

緩衝帯等整備事業は、市町村からの申請により実施しています。

実施箇所については、自然保護課と場所がかぶらないように、資料の提供などの情報共有をしています。

熊谷会長

クマの駆除などもしているのですか。

事務局（今川チームリーダー）

クマの駆除は市町村の実施隊が行っています。

熊谷会長

知事が駆除に向けて、法改正を国に依頼したとのことでしたが、その後はどうなったのでしょうか。

村上森林技監

法改正を予定しており、クマが指定管理鳥獣に指定されたことも、そのうちのひとつだと思います。県では、自然保護課が所管しており、今後も法改正への動きに合わせて、様々な動きがある予定です。

13 視察箇所③2018水と緑の森林祭植樹会場「仙北群美郷町千屋字狐森地内」

事務局（春日主幹）

資料6により概要を説明

熊谷会長

なぜホオノキを植えているのでしょうか。

事務局（春日主幹）

もともと美郷町では、「龍角散」の創業者と関わりが深いことから「龍角散」と連携して、生薬

の里づくりに取り組んでいました。そのような縁があることから、生薬になるホオノキを植樹したと聞いています。

和田部長

田沢湖の現場でもありましたが、ホオノキは発育がよいのも特徴です。ここもきれいにまっすぐ伸びていることが確認できると思います。田沢湖の石倉沢県有林にも、以前植樹した試験地がありますが、そちらは20メートルほどに伸びています。

事務局（今川チームリーダー）

質問が無いようなので、以上で予定していた視察を終了させていただきます。

14 閉会（今川チームリーダー）

本日は、車内での会議と3箇所の視察、大変お疲れ様でした。

次回の委員会は11月に開催する予定としております。開催日につきましては、後日調整させていただきますので、御出席をお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、令和6年度第1回秋田県水と緑の森づくり基金運営委員会を閉会いたします。

お帰りの際は、車の運転等に十分お気をつけいただきたいと思います。

本日はありがとうございました。